

2024年2月27日
中央日本土地建物グループ株式会社

「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」 環境省「自然共生サイト」への認定が決定

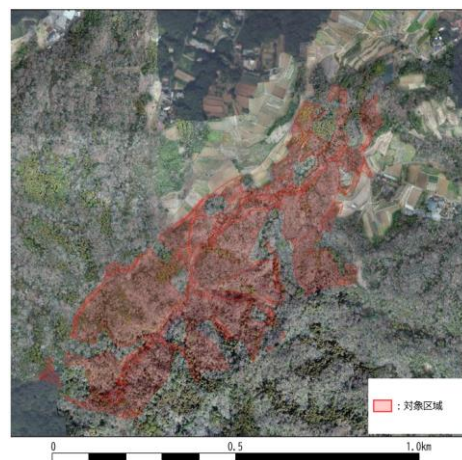
「30by30 アライアンス」へ参画、生物多様性の保全に貢献

中央日本土地建物グループ株式会社は、子会社の中央日本土地建物株式会社（千代田区霞が関一丁目 代表取締役社長 三宅潔）が保有する「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」（神奈川県平塚市）について、「自然共生サイト」への認定が決定されましたので、お知らせします。

「自然共生サイト」は、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する世界共通の目標「30by30（サーティ・バイ・サーティ）」の達成に向けて、環境省が2023年度から正式運用を開始した制度です。生物多様性の保全に貢献する区域を「自然共生サイト」と認定し、認定を受けた区域は「OECD^{*1}」として国際データベースに登録されます。「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」は、中央日本土地建物がグループの「サステナビリティ基本方針」に基づき、里地里山や湿地の環境改善および復元整備などに「産・官・学・民」一体となって取り組む体制などが評価され、「自然共生サイト」に認定されました。併せて、当社グループは環境省が主催する「生物多様性のための30by30 アライアンス^{*2}」へ参画します。引き続き対象区域の管理の充実を図り「30by30」の国内達成に貢献してまいります。

中央日本土地建物は、神奈川県平塚市西部の吉沢（きさわ）地区に保有する「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」において、長年にわたり里地・里山や生物多様性の保全に向けた活動を続けており、散策路の整備・景観づくりをはじめ、大学と連携したワークショップを行うなど、地元とともに、地域の共生、活性化に取り組んでまいりました。

当社グループは多様な生態系がもたらすさまざまな恩恵の重要性を認識し、里地・里山や生物多様性の保全と地域活性化を通じて、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。



対象区域

◆「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」について

「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」は、神奈川県平塚市西部丘陵地域の「鷹取山山麓」に位置し、豊かな植生や、多種多様な生物が生息する、東京ドーム 5 個分にあたる総面積 23.46ha の広大な里地・里山です。丘陵地域をめぐる散策路は、稀少な山野草や野鳥が豊富に見られ、富士山、相模湾、江ノ島などの良好な景観も楽しむことから、ハイキングコースとしても人気があります。また、かつて水田だった場所に湿地を復元整備した「トンボの里」は、多様なトンボ類の繁殖の場として平塚市の重要エリアと位置付けられているほか、「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」は平塚市の自然環境保全調査地区の一部であり、同地区の課題である「広域的な樹林の保全」「管理不足や過管理」「外来種対策」などの解決にも貢献しています。



谷部の流れと遊歩道



トンボの里

◆里地・里山や生物多様性の保全に向けた取り組みについて

本区域の活性化に向け、中央日本土地建物、平塚市、東京農業大学、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会^{※3}」で、2010年に「産・官・学・民」の四者協定を締結し、地域再生、活性化を担う人材育成、教育、研究、地域への還元等に関する取り組みを進めています。その一環として、景観整備や地域との連携を企図したワークショップの開催、散策路の整備・景観づくり、菜の花畑の生育、湿地復元による「トンボの里」整備・保全などの活動に取り組んでおり、2023年6月に開催された第40回ワークショップには、地域内外の方々、東京農業大学・東海大学の関係者や学生、平塚市、当社グループの社員併せて67名が参加するなど、積極的に活動を続けています。



第40回ワークショップの様子（散策路の整備・「トンボの里」の視察）

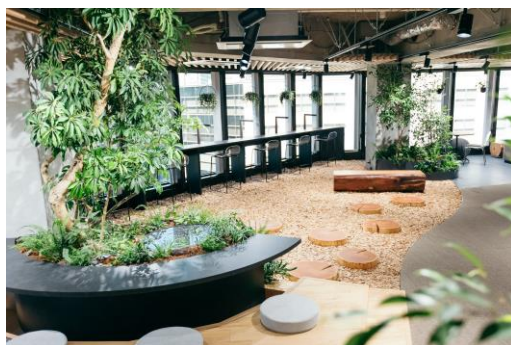
◆「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」と連携した取り組み

東京都港区新橋一丁目において推進している「西新橋一丁目プロジェクト」では、木材使用量約 132 m³を予定しており、建材の一部には「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」の木材の使用も検討しています。利用期を迎えた保有林の樹木を耐火集成材や仕上材の一部に活用し、適切な伐採により森林下部へ太陽光を届けることで、幼木の生育を促すとともに生物多様性を育みます。木造化・木質化によって、はたらく「人」や「環境」を重視した新たなワークスペースの価値創出とともに、脱炭素社会への貢献に挑戦していきます。



木造化・木質化、緑化イメージ

2023 年 10 月に開設したワークプレイスの R&D 拠点「NAKANIWA」(港区西新橋一丁目)では、「湘南平塚ゆるぎ 里地里山」のトンボ池や溪谷の水の豊かさや、立石・御神木のイメージを設えとして採用したほか、区域に生息する野鳥や虫などの声や溪流の音などを収録し BGM として使用するなど、五感を刺激する空間設計を導入しています。「ワークスペース」「人」「環境」の 3 つの軸で、「人」のエンゲージメントや「環境」への貢献に加え、コミュニケーションを促し、パフォーマンスを最大化する空間・機能・サービスを研究・開発しています。



NAKANIWA (2023 年 10 月開設)

※1OECM (Other Effective area-based Conservation Measures)：自然保護区など以外の生物多様性保全に貢献している場所。

※2 環境省が主催する「30by30」の国内達成に向け各種施策を実効的に進めていくための有志連合。

※3 保全活動従事者の減少や高齢化による荒廃山林の増加などの地域問題解決を目的に吉沢地区自治会連合会の下部組織として 2007 年 10 月に設立。2010 年「平塚市まちづくり条例」に基づく「地区まちづくり協議会」第 1 号の団体認定を受ける。

中央日本土地建物グループ株式会社 経営企画部広報室 (鈴木・向田)

Tel.03-3501-6906 Fax.03-3506-8940